

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	中1		社会		3
教科書			補助教材		
帝国書院 『中学生の地理 世界の姿と日本の国土』			育伸社『地理 I iワーク』 とうほう『白地図・世界』 新学社『学習の達成』（バラテスト）		
清水書院 『新中学校歴史 日本の歴史と世界』			文理『中学 Winpass 社会 歴史』		

**年間指導目標**

地理分野では、世界の自然環境および生活・文化、産業の地域的特色について理解させるとともに、その調査のための基礎的な技能を身につけさせる。  
歴史分野では、歴史を単なる昔物語に終わらせないようにする。そのため、つねに現代社会に生きる私たちの視点を意識するよう努める。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学期	前半	第1章 世界の姿 第2章 世界各地の人々の生活と環境 第3章 1節 アジア	いろいろな国の国名と位置 地球儀と世界地図の違い 世界の様々な地域の生活と環境 アジア州の自然環境・文化・産業等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の大陸・大洋・州および日本をはじめとする国々の位置や簡単な特色を把握させる。</li> <li>地図帳の利用方法を身につけさせる。</li> <li>緯度・経度を使い、目標を探ることができるようにし、また時差の計算ができるようにする。</li> <li>地球儀と世界地図の長短を理解させる。</li> <li>アジアの地域的特色を、自然、生活・文化、人口、産業などの側面を通して理解させる</li> <li>アジア諸国と日本のつながりを理解させる。</li> </ul>
	後半	第1章 原始・古代の日本と世界 第1節 文明のおこりと日本の始まり 第2節 律令国家の成立	ヒトがあらわれるまで 定住して生きる人びと 大河が生んだ文明 地中海が育てた文明 東アジアで生まれた文明 日本列島の文化 東アジアのなかの日本 古墳文化とヤマト王権の統一 唐・隋王朝とイスラーム帝国 聖徳太子の政治と飛鳥文化 律令国家をめざして 平城京の建設と仏教 律令制下の農民の暮らし 大陸の影響をうけた文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>文明がおこった地域の共通点を理解させる。その際、小学校で学ぶことのなかった「世界」にも関心を広げさせ、とくに日本の歴史には東アジアの影響が大きいことに注目させる</li> <li>日本の国土統一、律令体制の成立とその後の展覧のようすを朝鮮半島、中国の動きと関連させて理解させる。</li> </ul>
2 学期	前半	2節 ヨーロッパ 3節 アフリカ 6節 オセアニア	ヨーロッパ州、アフリカ州、オセアニア州の自然環境・文化産業等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨーロッパの地域的特色を、自然、生活・文化、産業などを通して理解させる。</li> <li>ヨーロッパの統合が生活に与えた影響を理解させる。</li> <li>アフリカの地域的特色を、自然、生活・文化、産業などを通して理解させる。その際、植民地支配が与えた影響について注目させる。</li> <li>オセアニアの地域的特色を、自然と産業の関わりを通して理解させる。</li> <li>オセアニアの社会の現状について理解させる</li> </ul>
	後半	第3節 貴族の政治と武士の登場 第2章 中世の日本と世界 第1節 武士の政権と東アジアのうごき 第2節 武家社会の展開と民衆	平安京へ都を移す 都の政治と地方の動き 武士の台頭と院政 国風文化 宋王朝とモンゴル帝国 平氏政権と日宋貿易 鎌倉幕府の成立と執権政治 武士と農民の生活 新しい仏教と鎌倉文化 元寇と鎌倉幕府の滅亡 建武の新政と室町幕府 東アジア世界とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>武士の登場から鎌倉幕府の成立とその崩壊までの過程を、武士社会固有の特徴とからめて理解させる。</li> <li>鎌倉文化の特色と鎌倉新仏教の誕生について、貴族文化との相違に注目させながら理解させる。</li> </ul>

3学期	4節北アメリカ 5節南アメリカ 第1章日本の姿 第2章世界と比べた日本の地域 的特色	南北アメリカ州の自然環境・文化 産業等について 世界の中での日本の位置・時差 日本の領土問題・行政区分	
評価方法	定期試験を中心に，課題レポートの内容・授業態度などをくわえ総合的に評価します。		
学習方法	中学社会を学ぶスタートとなる学年として，基本的な学習習慣を身につけさせることに重きを置く。あらかじめ学習する箇所を教科書で予習〔教科書の文章を丁寧に読んで，わからないところに印をつけます。そのうえで授業を受ける。〕させる。授業用ノートは必ず用意させ，板書を中心に大事と思われることがらを書かせ，テスト前にノートを使って復習させる。		
注意事項	授業の受け方，定期試験というテストのあり方など，わからない生徒も多いかと思うので，担当者がそのつど説明する。		
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材『iワーク』、『中学 Win Pass 社会 歴史』をつかって，自宅学習する。学習する箇所は，そのとき担当者から連絡する。		

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	中2		社会		3
<b>教科書</b>		<b>補助教材</b>			
帝国書院 『中学生の地理 世界の姿と日本の国土』		育伸社『地理Ⅱ iワーク』 とうほう『白地図・日本』 新学社『学習の達成』（バラテスト）			
清水書院『新中学校歴史 日本の歴史と世界』		文理『中学 WinPass 社会 歴史』			

年間指導目標
<p>地理分野では、世界の自然環境および生活・文化、産業の地域的特色について理解させるとともに、その調査のための基礎的な技能を身につけさせる。</p> <p>歴史分野では、歴史を単なる昔物語に終わらせないようにする。そのため、つねに現代社会に生きる私たちの視点を意識するよう努める。</p>

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第3章 近世の日本と世界 第2節 戦国大名と全国統一 第3節 江戸幕府の成立と進展 第4節 産業の発達と町人文化	戦国大名の登場 鉄砲とキリスト教の伝来 信長・秀吉による全国の統一 秀吉の政策 南蛮文化と桃山文化 江戸幕府の成立と大名統制 身分制度の確立と農村のようす 貿易奨励から鎖国へ 外国や周辺地域との関係 諸産業の発達 都市と商業の発達	第3章 第1節 ヨーロッパの拡大とアジアの交易は除く。
	後半	第3章 近世の日本と世界 第4節 産業の発達と町人文化 第5節 社会の変動と欧米諸国の接近 第4章 近代の進む世界と日本 第2節 開国と江戸時代の終わり 第3節 明治維新と文明開化	元禄時代の人びとのくらし 元禄文化と学問の発達 社会の変化と幕府政治の改革 ききん・打ちこわしと幕府政治の立てなおし 開国直前の日本 ペリーの来航と開国 幕末の動乱のはじまり 江戸時代の終わり 明治維新 身分制度の廃止と国民の形成 経済制度の改革 文明開化と教育の普及	第4章 第1節 近代社会の成立は除く。
2学期	前半	第3章 日本の諸地域 1節 九州 2節 中国四国 3節 近畿	九州地方、中国四国地方、近畿地方の自然環境・文化・産業等	
	後半	第4章 近代の進む世界と日本 第3節 明治維新と文明開化 第4節 立憲政治のはじまり 第5節 アジアの近代化と日本のうごき 第6節 日本の産業と社会の変化	新しい国際関係 領土の確定と北海道・沖縄 民選議院の主張と士族の反乱 自由民権運動と国会開設の公約 内閣制度と大日本帝国憲法の制定 立憲政治の定着と条約改正 近代と向かい合う中国と朝鮮 日清戦争／日露戦争 日本の植民地統治 中国の革命と日本 経済の発展とそのひずみ くらしと家 教育と文化の発展	
3学期		4節 中部 5節 関東 6節 東北地方 7節 北海道	中部地方、関東地方、東北地方、北海道の自然環境・文化・産業等	

<b>評価方法</b>	定期試験を中心に、課題レポートの内容・授業態度などをくわえ総合的に評価します。
<b>学習方法</b>	基本的な学習習慣を身につけさせるため、あらかじめ学習する箇所を教科書で予習させる。 その際、教科書は丁寧に読んで、わからないところに印をつけさせて、授業に臨ませる。 板書ノートは必ず用意させ、板書を中心に大事と思われることがらを書かせて、あとで復習を指示する。中2なので、自分でまとめてノートを作ること視野に入れる。
<b>注意事項</b>	効率的な学習と、手抜き学習の違いを指摘し、義務教育の範囲内はしっかり身につけることを意識させる。

インフルエンザ等  
で臨時休校になっ  
た場合の課題

補助教材『iワーク』、『中学 Win Pass 社会 歴史』をつかって、自宅学習する。  
学習する箇所は、そのとき担当者から連絡する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	中3		社会		4
教科書			補助教材		
清水書院『新中学校歴史 日本の歴史と世界』			文理『中学 WinPass 社会 歴史』		
東京書籍『新編 新しい社会 公民』			教育開発出版『Keyワーク 公民3年』		

年間指導目標
私たちが生きる現代社会を概観し、学ぶことで公民分野への関心を高め、地理的分野、歴史的分野との関連を図るとともに、現代社会を多面的・多角的に考察する。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第5章 二つの世界大戦と日本 第1節 第一次世界大戦と日本 第2節 政党政治の発展と大衆文化 第3節 ファシズムの動きと日中戦争 第4節 第二次世界大戦と戦時下の人びと	第一次世界大戦と日本 ロシア革命／大戦後の世界 民族運動の高まり 大正デモクラシーと政党政治の発展 社会主義運動とその取り締まり 植民地の動向と国外の日本人 都市化と文化の大衆化 民主主義と国際協調のゆらぎ 恐慌の影響と政党政治のゆきづまり 満州事変と軍部の政治介入 日中戦争と戦時体制 第二次世界大戦のはじまり アジア・太平洋地域の戦争 占領地と植民地のうごき 戦時下の民衆生活 第二次世界大戦の終結	
	後半	第5章 地球社会と私たち 1節 国際社会の仕組み 2節 様々な国際問題 3節 これからの地球社会と日本 第1章 現代社会と私たちの生活	国際社会における国家と国際連合の機能 地域主義の動きと新興国の台頭 地球環境・資源・貧困・戦争の問題	第1章は、大きく取り扱う
2学期	前半	第2章 個人の尊厳と日本国憲法 1節 人権と日本国憲法 2節 人権と共生社会 3節 これからの人権保障 第3章 現代の民主政治と社会 1節 現代の民主政治	立憲主義・国民主権・平和主義 基本的人権の保障と国民の義務 新しい人権 民主主義と政治（選挙・政党）	
	後半	2節 国の政治の仕組み 3節 地方自治と私たち 第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と経済	国会・行政・司法の仕組みと機能 地方自治の仕組みと機能 契約と消費生活 資本主義経済と企業	
3学期		2節 生産と労働 3節 価格の動きと金融 4節 政府の役割と国民の福祉 5節 これからの経済と社会	労働者の権利 市場経済の仕組みと金融の機能 財政の仕組みと機能 社会保障制度 グローバル化する日本経済	

評価方法	定期試験を中心に、課題レポートの内容・授業態度などをくわえ総合的に評価します。
学習方法	教科書の内容をしっかりと習得させるため、基本的な学習習慣を身につけるのみならず、文章（文字情報）を丁寧に読んで理解（インプット）し、それをノートにまとめる（アウトプット）力を身につけさせる。
注意事項	中学社会の集大成として、地理・歴史・政治経済という「社会科」という教科の繋がりや纏まりが理解できるように、横断的学習を意識して説明する。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材であるバラテストや『Keyワーク』をつかって、知識の定着を図ります。自宅学習で活用する時には、学習する箇所を担当者から連絡します。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高校1年		公民	現代社会	2
教科書		補助教材			
実教出版 『高校現代社会』		実教出版 『2021 新政治・経済資料』			

年間指導目標
資料集を活用しながら「政治経済」部分を中心に展開し、現代社会はもとより政治経済のセンター入試問題にも対応できるようにレベルを目標にする。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第3章 現代の国家と民主政治 1 人権現代の国家と民主政治 2 国民主権と民主政治の発展 1.日本国憲法の成立 2.平和主義	<ul style="list-style-type: none"> <li>民主政治の基本原則を理解する。</li> <li>我が国における憲法の成立過程を理解する。</li> <li>日本国憲法の基本的性格について理解する。</li> </ul>	民主政治の基本原則を学び、政治教育の重要性を理解させる。旧憲法と現行憲法の成り立ちや性格の相違について理解させる。平和主義の現状と課題について言及する。
	後半	3.基本的人権の保障 4.人権のひろがり 5.人権保障と裁判所 6.政治機構と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法の基本的性格について理解する。</li> <li>司法権の権能と課題について理解する。</li> <li>我が国の議院内閣制について理解する。</li> </ul>	基本的人権の重要性を、判例を使って理解させる。裁判員制度の理解と今後の司法の課題について理解させる。議院内閣制の特徴を理解し、今の政治の状況を各々の価値観で理解できるようにさせる。
2学期	前半	7 地方自治 8 選挙と政党 9 政治参加と世論 第6章 現代の経済社会と政府の役割 1 経済社会の形成と変容 2 市場のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方自治の機能と今後の可能性を理解する。</li> <li>選挙制度と政党の機能について理解する。</li> <li>政治参加の重要性を理解する。</li> <li>現代社会における企業や政府の働き、労働問題、公害と環境保全について理解させる。</li> </ul>	地方自治から、政治参加への糸口を理解させる。様々な選挙制度とその意義を理解させる。需要・供給曲線の法則を理解させる。
	後半	3 現代の企業 4 経済成長と景気変動 5 金融機関のはたらき 6 政府の役割と財政・租税	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術革新による産業構造の変化や現代企業の変貌、市場の寡占化の問題を理解させる。</li> <li>バブル崩壊と金融、日銀および政府の役割や働きを理解させ、租税の意義を考えさせる。</li> </ul>	株式会社の仕組みと企業の社会的責任を理解させる。金融・財政政策の仕組みと影響を理解させる。
3学期		第7章 経済活動のあり方と国民福祉 1 日本経済の歩みと産業構造の変化 2 中小企業と農業 3 公害防止と環境保全 4 消費者問題 5 労働問題と雇用 6 社会保障	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度成長からバブル崩壊後までの日本経済の歩みを理解させる。</li> <li>現代の経済社会では、環境・労働・社会保障が重要な課題となっていることを理解させる。</li> </ul>	現代の日本経済の課題が、高度成長期とは異なるものであることを理解させ、人間生活の豊かさの追及が課題であることを考えさせる。

評価方法	原則として「評価法」通り定期試験により評価する。ただし、必要に応じて課題レポートを課し、平常点の範囲内で加算する場合もある。
学習方法	座学中心の授業展開。資料集を多用し、『現代社会』の内容よりも踏み込んで学習する。
注意事項	座学中心なので、生徒が興味を失わないように実際の社会の出来事を取りあげ、より現実的に理解できるように工夫をする。なるべく資料集を使って授業を展開し、その内容は『政治・経済』を意識する。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	資料集を使って休暇中の範囲をまとめる。2単位なので、レポート2枚程度でまとめられるため、休養中の負担は少ないと判断した。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	1		社会	世界史A	2
<b>教科書</b>		<b>補助教材</b>			
新版世界史A 実教出版		最新世界史資料 実教出版 / 世界史B演習ノート 実教出版			

年間指導目標
東洋史の学習を通じて、現代の国際的諸問題にかかわる基礎知識を養成する。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	序章 ビッグバンから人類の出現へ 第1章 西アジア世界と地中海世界	先史時代 オリエント文明 オリエントの統一 イラン民族の国家	人類の進化、文明の誕生を理解させる。 いわゆる四大文明の成立を概観する。
	後半	第2章 南アジア世界と東南アジア世界 第3章 東アジア世界	インド文明 東南アジア世界と海の道 中国文明の形成	文化史については倫理との関連に留意するが、思想の詳細な説明など、深入りすることは避ける。
2学期	前半	第3章 東アジア世界 第4章 中央ユーラシア世界と東アジア世界の展開	中国古代帝国の成立 2世紀までの朝鮮半島と日本列島 中央ユーラシア世界の国家形成 胡漢融合帝国の誕生 3～9世紀の朝鮮半島と日本列島	前近代の中国史を概観する。 その際、日本史との関連に留意し、東アジア世界の歴史としての視点を意識させる。
	後半	第8章 中央ユーラシア世界と諸地域の交流・再編	中央ユーラシア諸民族と東アジア世界の変容 モンゴル帝国の成立 東南アジア世界の再編 10～13世紀の朝鮮半島と日本列島	中国歴代王朝と周辺諸国との関係性を理解させる。 特に、中国王朝と遊牧民との関わりに留意する。
3学期		第6章 イスラームの広がり と西アジア世界の展開	イスラーム帝国の成立 各地のイスラーム国家 イスラームの都市と文化	イスラーム教の成立からイスラーム帝国の形成・分裂の歴史を概観する。 その際、政治・経済との関連に留意し、今日の国際社会におけるイスラーム世界のあり方を意識させる。

評価方法	定期試験による。小テスト・課題プリント・ノート提出などを平常点に加味することもある。
学習方法	ノートを読み、声に出し、書いて覚える。 → 教科書を読む。 → 補助教材の問題を解いて確認する。出来なかった問題をノートや教科書でチェックする。 → これを繰り返すことにより知識が定着する。
注意事項	世界史を受験科目として考えている者は、早期の受験準備が肝要である。補助教材などを積極的に活用してほしい。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	最新世界史資料を精読し、演習ノートの問題を解く。そうすることで定期試験対策にもなる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高校2年	日大文系(世界史)、日大理系、難関大文系(世界史)、難関大理系	地理歴史科	日本史A	2
教科書			補助教材		
実教出版『高校日本史A 新訂版』			山川出版社『詳説日本史学習ノート 下』		

### 年間指導目標

近代国家の建設をめざした日本が歩んだ過程を検証し、社会を客観的にとらえる観察力を養う。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1章近代への転換 第2章大日本帝国の形成	開国と社会の変動 尊皇攘夷から倒幕へ 明治維新と新政府の成立 文明開化と復古 地租改正と富国強兵	明治新政府の政治方針の特徴に着目しつつ、廃藩置県を通じて中央集権体制が整備されていく過程を理解する。 地租改正が旧来の土地・貢租制度をどのように変えたか理解し、農民・農村に与えた影響を考察する。 殖産興業政策がどのように推進されたか、また産業界に与えた影響を理解する。 文明開化が人びとに与えた影響を理解する。
	後半	第3章大日本帝国の展開	アジア外交と国境問題 民権思想と国会開設運動 私擬憲法と政党の結成 松方財政と民権運動の激化 大日本帝国憲法の制定 条約改正と立憲政友会の成立	新政府が抱えていた外交的課題とその解決方法について考察する。 国会開設運動や士族の反乱が起こった原因・背景とその経過を理解する。 明治憲法の成立過程と諸法典について、その内容を理解する。 初期議会の推移について考察する。 条約改正がどのような経過で実現したかを理解する。
2学期	前半		朝鮮政策と日清戦争 日清戦争後の東アジア 日露戦争と朝鮮 朝鮮の植民地化 資本主義と寄生地主制 社会問題の発生 欧米文化と伝統文化の交錯	1880年代の日朝関係の問題点を考察する。 日清戦争の原因・経過・影響について考察する。また、列強の中国分割と日英同盟の締結過程について考察する。 日露戦争の経過と、戦争が国民に及ぼした影響を理解する。 日露戦後の資本主義の発達と社会運動の実態について考察する。
	後半	第4章両大戦間の世界と日本	大正デモクラシー 第1次世界大戦 第1次世界大戦後の世界 日本資本主義の成長 米騒動と改造の時代 男子普通選挙法と治安維持法 大正デモクラシーと文化	護憲運動とその後の政局の推移について考察する。 大戦中の日本の中国侵略が欧米列強の反発を招いたこと、戦後の民族自決の高まりの中で中国や朝鮮で民族独立運動に直面したことを理解する。 大戦景気が日本資本主義の急速な発展をもたらしたこと、戦後の国内外の状況が社会運動の台頭と広がりをもたらしたことを理解する。 ワシントン体制が日本の外交・内政に与えた影響について考察する。 関東大震災の被害とそれが日本の社会と経済に与えた影響を理解する。



3学期	第5章 15年戦争と日本・アジア	侵略戦争への序幕 満州事変と「満州国」 日中戦争 第2次世界大戦と日本 戦時下の学問と文化 アジア太平洋戦争 戦争末期の国民生活 日本の敗戦	金融恐慌・昭和恐慌によって日本経済が深刻な不況に陥ったことを理解する。 恐慌の深刻化と中国の民族運動に直面し、日本が内外ともに政策の行き詰まりをみせ、軍部が台頭し、政党内閣の慣行が崩壊し、国家改造による軍拡や大陸侵略をめざす動きが起こったことを理解する。そして日中戦争の長期化するなかで、アメリカと対立を深め、太平洋戦争にいたったこと、大東亜共栄圏がアジア諸国に搾取と抑圧をもたらしたことを理解する。
-----	------------------	---	---

評価方法	定期試験を中心に小テストなど加え、総合的評価する。
学習方法	学習する日本近現代史に是非興味を持ってほしい。授業は『詳説日本史学習ノート 下』を使って進める。
注意事項	特になし
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	担当者から適宜、指示する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	2	難関大	社会	難関大進学 文系世界史B	2
教科書			補助教材		
詳説世界史 山川出版社			詳説世界史10分間テスト 山川出版社/ニューステージ世界史詳覧 浜島書店		

### 年間指導目標

高校1年で学んだ東洋史の流れを踏まえて、古代から近代までの西洋史を学習し、高校3年で学習する近現代史を理解するための基礎知識を養成する。また、受験に向けて高校1年の既習事項を復習する。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1章 オリエンと地中海世界 2 ギリシア世界 3 ローマ世界	エーゲ文明 ギリシアのポリス世界 ヘレニズム時代  古代ローマ史 キリスト教の成立	ギリシアのポリス世界、ローマ帝国による地中海世界の統一が西洋史の出発点となったことを理解させる。 歴史地図等を用いて地理的に把握させる。
	後半	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1 西ヨーロッパ世界の成立 2 東ヨーロッパ世界の成立	ゲルマン人の大移動 フランク王国とその分裂 第二次民族移動 封建社会の成立 ビザンツ帝国	ゲルマン人の大移動が中世ヨーロッパ世界形成の端緒となり、フランク王国の分裂で今日のドイツ・フランス・イタリアの基礎ができたことを理解させる。 ビザンツ帝国の歴史的意義を理解させる。
2学期	前半	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 3 西ヨーロッパ中世世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化 第7章 アジア諸地域の繁栄 1 東アジア世界の動向 2 清代の中国と隣接諸地域	十字軍運動 中世ヨーロッパ各国史 中世ヨーロッパ文化史  明代の中国 清代の中国	中世ヨーロッパ各国の歴史を教皇権との関連を踏まえて理解させる。  プリントを用いて、明・清代の中国史を概観させる。その際、ヨーロッパ諸国との外交・文化の関わりに留意する。
	後半	第7章 アジア諸地域の繁栄 3 トルコ・イラン世界の展開 4 ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス 3 宗教改革	ティムール朝・オスマン帝国・サファヴィー朝 ムガル帝国  大航海時代 ルネサンス ドイツ・スイス・イギリスの宗教改革 対抗宗教改革	プリントを用いて、13世紀以降のイスラーム史を概観させる。 高校1年で学習した範囲とのつながりに留意する。  大航海時代（経済・社会面）・ルネサンス（文化面）・宗教改革（宗教面）が近代ヨーロッパ始まりとなったことを理解させる。
3学期		第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀のヨーロッパ文化と社会	主権国家体制の成立  重商主義・啓蒙専制主義・イギリス革命 第二次英仏百年戦争 17～18世紀のヨーロッパ文化	近代ヨーロッパの主権国家体制が今日の国際関係の端緒を形成していく課程を概観させる。  西洋史中心の見方にとらわれないように注意する。

評価方法	定期試験による。小テスト・課題プリント・ノート提出などを平常点に加味することもある。
学習方法	初めて学ぶことが多いと思われるので、授業後の復習が大切である。その際、授業内容を踏まえて教科書を精読し、補助教材を用いて問題演習をする。できなかったところを再び教科書やノートに戻って復習する。これを繰り返すことにより知識の定着を図ってほしい。特に世界史で受験を考えている者は、高校1年の既習範囲も含めてなるべく早く受験準備に取りかかってほしい。
注意事項	近代に関しては西洋史だけでなく、明・清代の中国史及びオスマン帝国・ムガル帝国などの東洋史も扱う。また、高校1年で学習した東洋史の範囲も適宜復習していく。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	『詳説世界史10分間テスト』の既習の範囲をノートにやる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高校2年	難関大	地理歴史	日本史B	4
教科書		補助教材			
山川出版社『詳説日本史』		帝国書院『図説 日本史通覧』, 山川出版社『改訂版日本史B用語集』, 同『日本史総合テスト』, 同『日本史史料集』			

### 年間指導目標

2年間で日本の全史を学ぶ。他大学受験を念頭に置き、入試に十分に対応できる学力の育成をめざす。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	文化のはじまり 農耕社会の成立 古墳とヤマト政権 飛鳥の朝廷 律令国家の成立 平城京の時代 天平文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。</li> <li>・大陸から伝搬した稲作文化の特色を理解し、弥生文化の形成を考察する。</li> <li>・ヤマト政権による国家形成の過程を東アジア世界との関係を踏まえて考察する。</li> <li>・律令国家の形成過程とその完成を、律令体制を多面的にとらえ考察する。</li> </ul>
	後半	第2章 律令国家の形成 第3章 貴族政治と国風文化 第2部 中世 第4章 中世社会の成立	平安朝廷の形成 摂関政治 国風文化 荘園と武士 院政と平氏の台頭 鎌倉幕府の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平安初期の古代国家を、律令体制の変容と摂関政治とあわせて理解する。</li> <li>・地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質と荘園の拡大をもたらした過程を考察する。</li> <li>・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。</li> <li>・鎌倉幕府の成長の過程を考察する。</li> </ul>
2学期	前半	第5章 武家社会の成長	武士の社会 蒙古襲来と幕府の衰退 鎌倉文化 室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握した過程を理解する。</li> <li>・蒙古襲来による政治・経済・社会への影響が幕府衰退の一因となったことを理解する。</li> <li>・南北朝動乱から室町幕府の成立と安定について、あわせて庶民が台頭した点を考察する。</li> </ul>
	後半	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立  第7章 幕藩体制の展開	室町文化 戦国大名の登場  織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立  幕政の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武家・公家両文化、及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。</li> <li>・応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名について、その地理的条件と関連させて理解する。</li> <li>・ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。</li> <li>・徳川氏による幕府設立及び幕藩体制確立の過程を理解する。</li> <li>・江戸幕府の安定期について、「平和と秩序」の確立の視点で考察する。</li> </ul>
3学期			経済の発展 元禄文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幕藩体制安定期の農業・商工業の発展について、相互関連や社会的役割を踏まえ考察する。</li> <li>・町人文化の形成を、町人の社会的台頭と関連させて理解する。</li> </ul>

定期試験と小テストをもとに総合的に評価する。

### 評価方法

<p>学習方法</p>	<p>近年，多くの大学の入試問題は，日本史においても難問・奇問が減り，各時代の総合的な理解ができているか，政治や社会等，各分野の歴史的な変遷が把握できているかを問うものが主流となっている。したがって，教科書を用いて予習を行ない，疑問に思う個所を明らかにして授業に臨むことが要求される。授業は，歴史の流れを把握することに主眼を置く。そのために必要な重要事項を効率よく整理し，提供することを心がけるつもりである。授業後，補助教材を使って，実践的な課題を出す。</p>
<p>注意事項</p>	<p>歴史を学ぶ上で何より大切なのは，歴史の流れを「大きくつかんで，細かく押さえる」ことである。やみくもに歴史用語を暗記するのではなく，歴史事象の因果関係あるいは変化を，常に意識して学習する態度が必要とされる。授業で，「流れ」をつかみ，復習のための課題演習を通じて，重要事項の定着をはかってほしい。</p>
<p>インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題</p>	<p>補助教材の該当箇所を適宜指示する。</p>

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高校2年	他大進学	公民	倫理	2
教科書		補助教材			
第一学習社 『高等学校 改訂版 倫理』 倫理310		第一学習社 『改訂版 倫理ノート』、浜島書店 『最新図説 倫理』			

年間指導目標
センター試験レベルに対応できる学力の養成を念頭に置いて授業を展開し、基本事項の定着をめざす。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1章 青年期の課題と自己形成 第2章 人間としての自覚 1 ギリシアの思想	青年期における人格形成の課程を理解する。 西洋思想の学問の基礎をなすギリシア哲学の流れと内容を理解する。 キリスト教の成立過程と考え方を理解する。	青年期を理解することにより、今の自分を見つめ成長の一助となることも目標にする。 知への探求の出発点を意識し理解させる。 宗教の存在意義を意識して解説する。
	後半	2 キリスト教 3 イスラーム 4 仏教 5 中国の思想 第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 1 日本の風土と伝統	イスラームの成立過程と考え方を理解する。 仏教の成立過程と考え方を理化する。 日本文化にも大きく影響を与えた中国思想を理解する。 日本文化の基礎となる考え方を理解する。	宗教の存在意義を意識して解説する。 中国思想の系譜を理解させる。 日本古来の自然観に根差している点に留意し展開する。
2学期	前半	2 外来思想の受容 ① 日本仏教の展開 ② 日本儒教の展開 3 町人意識のめざめと庶民思想	仏教の影響を受けた日本文化を理解する。 中国思想の影響を受けた日本文化を理解する。 西欧思想の影響を受けた日本文化を学習・理解する。	日本史の授業にならないよう、考え方の変遷に重点を置きながら展開する。 中国思想がわが国でどのようにアレンジされたかを意識して展開する。 西欧思想がわが国でどのようにアレンジされたかを意識して展開する。
	後半	④ 近代的自我の確立 ⑤ 社会思想の展開 ⑥ 近代日本の思想課題 第4章 現代に生きる人間の倫理 1 人間の尊厳 2 近代の科学革命と自然観	西欧思想の影響の中で展開した我が国の文化について理解する。 ルネサンスと宗教改革から始まったヒューマニズムについて理解する。 経験論と合理論について理解する。	日本史の授業と同じにならないように、思想の展開に重点をおいて展開する。 世界史の授業と同じにならないように、思想の展開に重点をおいて展開する。 デカルト、ベーコンは、図説使って解説する。
3学期		3 自由で平等な社会の実現 4 人間性の回復と主体性の確立 5 現代の思想と人間像 6 生命への畏敬と社会参加 第5章 現代の諸課題と倫理	近代市民社会を形成した理論を理解する。 資本主義の中で生まれてきた、様々な考え方を理解する。 生命・環境をめぐる諸問題を理解する。	「現代社会」で学んだ社会契約説を思想的側面から捉える。 カント・ヘーゲルの思索の内容を整理し解説する。 登場人物が多い為、思想の展開や特徴を理解させてから、各人物をとらえさせる。

評価方法	原則として「評価法」通り定期試験により評価する。ただし、必要に応じて課題レポートを課し、平常点の範囲内で加算する場合もある。
学習方法	座学中心の授業展開。副教材を利用し、「思考する」ことに重点を置いて学習する。
	座学中心なので、生徒が興味を失わないように、身近な事例をとりあげ、より具体的に理解できるよう工夫をする。「思考」することにより、青年期の人格形成の一助になることをも視野に入れていき

注意事項	たい。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	資料集を使って休暇中の範囲をまとめる。2単位なので、レポート2枚程度でまとめられるため、休養中の負担は少ないと判断した。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	2	日大	社会	日大進学 文系世界史B	2
教科書		補助教材			
詳説世界史 山川出版社		詳説世界史10分間テスト 山川出版社/ニューステージ世界史詳覧 浜島書店			

### 年間指導目標

高校1年で学んだ東洋史の流れを踏まえて、古代から近代までの西洋史を学習し、高校3年で学習する近現代史を理解するための基礎知識を養成する。また、受験に向けて高校1年の既習事項を復習する。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1章 オリエンと地中海世界 2 ギリシア世界 3 ローマ世界	エーゲ文明 ギリシアのポリス世界 ヘレニズム時代  古代ローマ史 キリスト教の成立	ギリシアのポリス世界、ローマ帝国による地中海世界の統一が西洋史の出発点となったことを理解させる。 歴史地図等を用いて地理的に把握させる。
	後半	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1 西ヨーロッパ世界の成立 2 東ヨーロッパ世界の成立	ゲルマン人の大移動 フランク王国とその分裂 第二次民族移動 封建社会の成立 ビザンツ帝国	ゲルマン人の大移動が中世ヨーロッパ世界形成の端緒となり、フランク王国の分裂で今日のドイツ・フランス・イタリアの基礎ができたことを理解させる。 ビザンツ帝国の歴史的意義を理解させる。
2学期	前半	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 3 西ヨーロッパ中世世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化 第7章 アジア諸地域の繁栄 1 東アジア世界の動向 2 清代の中国と隣接諸地域	十字軍運動 中世ヨーロッパ各国史 中世ヨーロッパ文化史  明代の中国 清代の中国	中世ヨーロッパ各国の歴史を教皇権との関連を踏まえて理解させる。  プリントを用いて、明・清代の中国史を概観させる。その際、ヨーロッパ諸国との外交・文化の関わりに留意する。
	後半	第7章 アジア諸地域の繁栄 3 トルコ・イラン世界の展開 4 ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス 3 宗教改革	ティムール朝・オスマン帝国・サファヴィー朝 ムガル帝国  大航海時代 ルネサンス ドイツ・スイス・イギリスの宗教改革 対抗宗教改革	プリントを用いて、13世紀以降のイスラーム史を概観させる。 高校1年で学習した範囲とのつながりに留意する。  大航海時代（経済・社会面）・ルネサンス（文化面）・宗教改革（宗教面）が近代ヨーロッパ始まりとなったことを理解させる。
3学期		第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀のヨーロッパ文化と社会	主権国家体制の成立  重商主義・啓蒙専制主義・イギリス革命 第二次英仏百年戦争 17～18世紀のヨーロッパ文化	近代ヨーロッパの主権国家体制が今日の国際関係の端緒を形成していく課程を概観させる。  西洋史中心の見方にとらわれないように注意する。

評価方法	定期試験による。小テスト・課題プリント・ノート提出などを平常点に加味することもある。
学習方法	初めて学ぶことが多いと思われるので、授業後の復習が大切である。その際、授業内容を踏まえて教科書を精読し、補助教材を用いて問題演習をする。できなかったところを再び教科書やノートに戻って復習する。これを繰り返すことにより知識の定着を図ってほしい。特に世界史で受験を考えている者は、高校1年の既習範囲も含めてなるべく早く受験準備に取りかかってほしい。
注意事項	近代に関しては西洋史だけでなく、明・清代の中国史及びオスマン帝国・ムガル帝国などの東洋史も扱う。また、高校1年で学習した東洋史の範囲も適宜復習していく。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	『詳説世界史10分間テスト』の既習の範囲をノートにやる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高2	日大クラス	地歴	日本史B	4
<b>教科書</b>		<b>補助教材</b>			
『詳説 日本史 B』 山川出版社		帝国書院『図説 日本史通覧』 山川出版社『詳説 日本史改訂版10分間テスト』, 担当者作成プリント			

### 年間指導目標

2年間かけて日本の通史を学ぶ。あわせて基礎学力到達度テストに対応できる学力の養成をめざす。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	文化のはじまり 農耕社会の成立 古墳とヤマト政権 飛鳥の朝廷 律令国家への道 平城京の時代①	<ul style="list-style-type: none"> <li>人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。</li> <li>大陸から伝搬した稲作文化の特色を理解し、弥生文化の形成を考察する。</li> <li>ヤマト政権による国家形成の過程を東アジア世界との関係を踏まえて考察する。</li> <li>律令国家の形成過程とその完成を、律令体制を多面的にとらえ考察する。</li> </ul>
	後半	第2章 律令国家の形成 第3章 貴族政治と国風文化 第2部 中世 第4章 中世社会の成立①	平城京の時代② 天平文化 平安王朝の形成 摂関政治 国風文化 地方政治の展開と武士	<ul style="list-style-type: none"> <li>平安初期の古代国家を、律令体制の変容と摂関政治とあわせて理解する。</li> <li>地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質と荘園の拡大をもたらした過程を考察する。</li> <li>院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。</li> </ul>
2学期	前半	第4章 中世社会の成立②	院政と平氏の台頭 鎌倉幕府の成立 武士の社会 蒙古襲来と幕府の衰退	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉幕府の成長の過程を考察する。</li> <li>武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握した過程を理解する。</li> <li>蒙古襲来による政治・経済・社会への影響が幕府衰退の一因となったことを理解する。</li> </ul>
	後半	第5章 武家社会の成長	鎌倉文化 室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>南北朝動乱から室町幕府の成立と安定について、あわせて庶民が台頭した点を考察する。</li> <li>武家・両文化、及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。</li> </ul>
3学期		第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立	戦国大名の登場 織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立 幕藩社会の構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名について、その地理的条件と関連させて理解する。</li> <li>ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。</li> <li>徳川氏による幕府設立および幕藩体制確立の過程を理解する</li> <li>幕藩体制を支えた社会構造の特色を理解する。</li> </ul>

評価方法	定期試験・小テストに平常点を加え評価する。
学習方法	担当者の指示にしたがって、教科書の該当箇所を予習する。基本事項の確認については、補助教材を活用し、その定着を図る。 授業では、歴史的事象の時代背景・相互関連を含め解説するので、教科書および担当者作成プリントを用いて、復習に努めてほしい。
注意事項	特になし
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	家庭学習において、進度に見合った学習を、自ら教科書、問題演習プリントを使って行う。



年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高校2年	日大進学文系	公民	倫理	2
教科書		補助教材			
第一出版社 『高等学校 改訂版 倫理』 倫理310		浜島書店 『最新図説 倫理』			

### 年間指導目標

高校3年次に「倫理・政治経済」で統一テストを受験する生徒を対象とし、「センター試験」や「統一テスト」に対応できる学力養成を視野に入れた授業展開をする。高3で演習をより多く展開するためにも、出来るだけ進める。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1章 青年期の課題と自己形成 1 よく生きることが求めて 2 青年期の課題 第2章 人間としての自覚 1 ギリシャ思想の展開	1 自然哲学とソフィスト 2 ソクラテス	○青年期特有の不安を、客観的に理解する。 ○青年期の課題を、アイデンティティの確立として捉える。 ○古代ギリシアの、自然哲学の誕生を通して、理性的人間観と合理的世界観の成立を理解する。 ○ソクラテスの哲学的精神の意義を理解する。
	後半	2 キリスト教  3 イスラーム	3 プラトン 4 アリストテレス 5 ギリシャ思想の展開  1 ユダヤ教の世界 2 イエス 3 キリスト教の発展	○理想主義であるイデア論の特徴を理解する。 ○アリストテレスの自然観、および道徳論・国家論を学ぶ。  ○キリスト教の形成を学習し、一神教の特徴を理解する。 ○神の愛アガペーと隣人愛の意義を考える。 ○パウロやアウグスティヌスの人間観を理解する。 ○キリスト教とイスラームの思想的な関係を理解する。
2学期	前半	4 仏教  5 中国思想	1 インドの思想文化 2 ブッダの教え 3 仏教思想の展開  1 中国の思想文化 2 儒家の思想 3 道家の思想	○仏教が自己形成の実践であることを理解する。 ○ブッダの縁起説や無我の法について学習する。 ○日本思想の伝統となる、大乘仏教の特徴を理解する。  ○孔子の説く人倫の道の特徴を理解し、漢字文化圏に共通する家族主義道徳について考える。 ○儒教的人間観および世界観の特徴を理解する。 ○老荘思想の「道」の捉え方を学習する。
	後半	第4章 現代に生きる人間の倫理 1 人間の尊厳  2 近代の科学革命と自然観  3 自由で平等な社会の実現	1 ルネサンスと宗教改革  2 人間性の探求(モラリスト)  1 近代の科学革命 2 経験論と合理論 3 近代化学と社会の進歩  1 社会契約説の思想	○ルネサンスが、近代のヒューマニズムへと展開したことを理解する。 ○宗教改革が西欧近代社会形成の重要な契機となったことを理解する。 ○モラリストの思想と理性主義へのパスカルの批判を考える。  ○近代科学および機械論的自然観の特徴を理解する。 ○近代科学の発展に大きな影響を与えたベーコンとデカルトの思想の特徴を理解する。 ○実証主義や社会進化論の特徴を理解する。  “ ○民主社会を形成する基本原理を、自然法思想や社会契約論の展開から理解する。”

3学期	4 人間性の回復と主体性の確立	2 人格の尊厳と自由－カント 3 人倫と自由の実現－ヘーゲル 4 功利主義の思想 1 社会主義の思想 2 実存主義の思想 3 プラグマティズムの思想	○自律を人格の尊厳の根拠とするカントの思想を学習し、近代の人間尊重の精神を理解する。 ○ヘーゲルの弁証法的なものの見方、および弁証法の論理に基づく「人倫」の捉え方を理解する。 ○功利主義思想の特徴を理解し、功利主義と民主主義との関係や、個性の自由について考える。 ○社会主義思想およびマルクスの人間観・社会観を学習し、現代の精神的貧困について考える。 ○キルケゴールの単独者やニーチェの超人の思想を学習し、主体的自己の確立について考える。また実存思想を学習し、自由な内面的自己を確立する意義と、人類に責任を負う生き方を考える。 ○プラグマティズムの思想の特徴を理解する。
-----	-----------------	---	--

評価方法	定期試験
学習方法	過去問題を数多く解くことにより各自の「穴」を見つけ、その部分を復習・強化していく。
注意事項	漫然と過去問題を解くということにならないよう、時間をはかり、集中力を高めつつ効率良い演習を心がける。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	演習問題を解き、その解説をレポートにまとめる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高校3年	日大進学	公民	政治経済	4
教科書		補助教材			
実教出版 『高校 政治・経済』		とうほう 『ウィニングコンパス 倫理・政経／現代社会の整理と演習』 第一学習社 『最新政治経済資料集』、清水書院 『用語集 政治経済』			

### 年間指導目標

基礎学力到達度テストで標準化得点60点平均を目標に、「センター試験」や「日大統一テスト」等の過去問を活用し、得点力を身に付けられるような授業展開にする。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第2章 現代経済のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上 第4章 世界経済と日本	企業と市場機構 国民所得 財政と金融 戦前・戦後の経済史 産業構造の変化 消費者の保護 労働問題 社会保障制度 国際通貨制度 国際経済の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民経済の内容を把握する。</li> <li>・修正資本主義における積極的な財政・金融政策の内容と問題点を理解する。</li> <li>・経済構造の変化と国民生活の変容を考察する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際経済体制のあり方を平和維持と関連させて考察する。</li> </ul>
	後半	政治分野・経済分野重要事項の学習及び問題の演習	要点のまとめ 日本大学統一テスト過去問題 センター試験過去問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力到達度テスト及び他大学入試などに向けた学習。</li> </ul>
2学期	前半	政治分野・経済分野重要事項の学習及び問題の演習	要点のまとめ 日本大学統一テスト過去問題 センター試験過去問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力到達度テスト及び他大学入試などに向けた学習。</li> </ul>
	後半	演習	学年末テストに向けての総復習	総復習
3学期		現時点では未定		

評価方法	定期試験及び単元テスト・課題の提出状況で評価します。
学習方法	教科書・資料集・用語集で基本事項の理解に努め、演習により広範な知識の定着をはかる。
注意事項	難解な内容が多く見受けられますが、学習した単元を一つ一つ確実に身につける地道な努力を期待します。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	適宜指示する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高校3年	日大進学	公民	政治経済演習 (倫理)	3
教科書		補助教材			
実教出版 『高校 倫理』		浜島書店 『最新図説 倫理』、とうほう 『ウィニングコンパス 倫理・政経 / 現代社会 の整理と演習』、清水書院『用語集 倫理』			

### 年間指導目標

基礎学力到達度テストで標準化得点60点平均を目標に、「センター試験」や「日大統一テスト」等の過去問を活用し、演習に力点を置いた授業展開にする

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第4節 近世日本の思想(2)  第5節 西洋思想の受容と展開	1 民衆の思想 2 国学の形成 3 幕末の思想  1 啓蒙思想と自由民権思想 2 キリスト教の受容 3 国家主義の台頭と 社会主義思想 4 近代的自我の確立 5 近代日本哲学の成立と 超国家主義 6 多様な文化と共生の課題	○朱子学に基づく江戸思想の多様な展開を理解する。 ○古学から国学への展開と、国学による自文化理解の特徴を学習する。 ○洋学の発展と西洋に対する「和魂洋才」の態度について理解する。 ○福沢諭吉や中江兆民の思想とその軌跡を学習する。 ○内村鑑三の思想形成を通して、日本近代化の課題について考える。 ○国家主義や初期社会主義を通じて、日本近代化について考える。 ○夏目漱石の文学や大正デモクラシーの展開を学習する。 ○西田哲学や和辻倫理学の形成と、ファシズムについて考える。 ○自文化理解を学習し、国際社会の中の日本文化の可能性を考える。
	後半	演習	センター試験や統一テストの過去問、用語集	得点力の強化。 基礎力を確かなものにし、高得点より高確率を心がける。
2学期	前半	演習	センター試験や統一テストの過去問、用語集	得点力の強化。 基礎力を確かなものにし、安定した得点率を目指す。
	後半	演習	学年末テストに向けての総復習	総復習
3学期		現時点は未定		

評価方法	定期試験
学習方法	過去問題を数多く解くことにより各自の「穴」を見つけ、その部分を復習・強化していく。
注意事項	漫然と過去問題を解くということにならないよう、時間をはかり、集中力を高めつつ効率良い演習を心がける。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	演習問題を解き、その解説をレポートにまとめる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	3	難関大	社会	日大進学 文系世界史B	4
教科書		補助教材			
詳説世界史 山川出版社		詳説世界史10分間テスト 山川出版社/ニューステージ世界史詳覧 浜島書店 詳説世界史スタンダードテスト 山川出版社			

### 年間指導目標

早慶、GMARCHなどの難関私大に対応できる得点力と歴史的思考力の養成。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第11章 欧米における近代国民国家の発展	1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオンウィーン体制、ヨーロッパの再編、アメリカ合衆国の発展	産業革命以降の近現代史を扱う。前近代の歴史についても、適宜復習する時間を設ける。近現代史は諸国間の関係が複雑にからみあうため、年表を常に傍らに置き、10年間隔で歴史事項を整理・理解するよう努める。
	後半	第12章 アジア諸地域の動揺 第13章 帝国主義とアジアの民族運動	オスマン帝国の動揺とアラブのめざめ 南アジア・東南アジアの植民地化 東アジアの激動 帝国主義と列強の展開 世界分割と列強対立 アジア諸国の改革と民族運動 第一次世界大戦とロシア革命	ロシアの南下政策に絡む東西の歴史、特にアジア地域を中心として歴史的理解を深めていく。自由主義、国民主義、社会主義帝国主義、ファシズムなどの思想・潮流に着目し、各国の歴史に与えた影響を理解する。
2学期	前半	第14章 二つの世界大戦 第15章 冷戦と第三世界の自立 第16章 現代の世界	世界恐慌とファシズム諸国の侵略 第二次世界大戦 東西対立の始まりとアジア諸国の自立 冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興 第三世界の自立と危機 米・ソ両大国の動揺と国際経済の危機 冷戦の解消と世界の多極化 社会主義世界の解体と変容 第三世界の多元化と地域紛争	戦後の各国の歩みを、冷戦構造を踏まえて理解する。冷戦後の国際関係を整理する。その際、現在進行中の国際問題を事例としてあげるなど、現在の出来事に関連させるように工夫する。
	後半	単元別演習・地域史・総合問題演習・入試問題演習	これまでの学習内容を踏まえて、単元毎の復習、地域毎のタテの歴史、総合問題、そして入試問題演習へとつなげていく。	中国史・中世ヨーロッパ史と近現代史などの入試の穴となる単元を重点的に復習し、地域史（特にアジア・ヨーロッパ史）を中心に復習をしていくことで、重層的な理解ができるようになる。総合問題で解法のポイントを押さえ、入試問題演習で本番に通用する得点力を養成する。（得点率7割目標）
3学期		個別対応（受験対策）		

評価方法	定期試験による。小テスト・課題プリント・ノート提出などを平常点に加味することもある。
学習方法	授業時に適宜指示する。
注意事項	授業内で適宜、文化史・テーマ史なども扱っていく。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材の問題集を用いて、既習事項を復習する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	3	難関大	社会	難関大進学文系 世界史演習	3
教科書		補助教材			
詳説世界史 山川出版社		詳説世界史10分間テスト 山川出版社/ニューステージ世界史詳覧 浜島書店 要点整理ゼミナール世界史 浜島書店			

### 年間指導目標

早慶、GMARCHなどの難関私大に対応できる得点力と歴史的思考力の養成。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	序章/第1章 オリエンと地中海世界の形成と展開 第2章 南アジア・東南アジア世界の形成 第3章 東アジア世界の形成(1) 第4章 内陸アジア世界の形成と東アジア世界の形成(2) 第5章 近代以前の 아프리카・アメリカ・オセアニア 第6章 イスラーム世界の形成と展開	先史時代、オリエン、ギリシア、ローマ、イラン インド、東南アジア 中国史(中国文明～後漢) 内陸アジア史、中国史(魏晋南北朝～唐) アフリカ、アメリカ、オセアニア イスラーム史	授業をペースメーカーにして、高1・高2の既習事項を復習させる。  補充問題プリントを用いるなど、個々人の苦手分野克服のための課題を課し、早期に知識の穴を埋めさせる。
	後半	第7章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第8章 内陸アジア世界と東アジア世界の展開 第9章 アジア諸地域の繁栄 第10章 近世ヨーロッパの形成(1) 第11章 近世ヨーロッパの形成(2) 第12章 近世ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	中世ヨーロッパ史 中国史(五代十国時代～元) オスマン帝国、ムガル帝国、明・清 大航海時代、ルネサンス、宗教改革 近世ヨーロッパ各国史 米独立革命、仏革命、産業革命	出題形式に応じた対策・指導を心がける。  各国史、テーマ史、同時代史、文化史など発展的学習にも取り組ませる。
2学期	前半	第13章 欧米における近代国民国家の発展 第14章 アジア・アフリカ諸地域の動揺 第15章 帝国主義の時代 第16章 第一次世界大戦と世界の変動 第17章 ファシズムと第二次世界大戦	18世紀の西洋史 18世紀の東洋史 帝国主義 第一次世界大戦、ヴェルサイユ・ワシントン体制 世界恐慌以降の戦間期、第二次世界大戦	
	後半	第18章 冷戦の時代 第19章 冷戦の終結 センター試験過去問	冷戦 冷戦後 過去問演習	
3学期		個別対応(受験対策)		

評価方法	定期試験 小テスト 課題プリント等
学習方法	授業時に適宜指示する。
注意事項	特になし。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	問題集を用いて、既習事項を復習する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高3	難関大クラス	地歴	日本史B	4
教科書		補助教材			
『詳説 日本史 B』 山川出版社		担当者作成プリント，帝国書院『図説 日本史通覧』，山川出版社『日本史B用語集』，同『日本史史料集』，同『復習と演習 日本史テスト』，			

### 年間指導目標

高校2年次からの日本史学習の仕上げを目標とする。なお，他大学受験を念頭に置き，入試に十分に対応できる学力の育成をめざす。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第8章 幕藩体制の動揺  第9章 近代国家の成立	幕政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化  開国と幕末の動乱 明治維新と富国強兵	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村・都市の変容により幕藩体制が動揺し，幕府や諸藩が実施した改革の意義と影響を考察する。</li> <li>・欧米諸国のアジア進出とそれに対する幕府の対応を考察し，幕府が衰退に向かう過程を理解する。</li> <li>・洋学や国学，新たな展開を見せる文学・芸能・美術を社会の変容と関連付けて考察する。</li> <li>・開国までの経緯を，日本を国際社会に組み込むにいたった国際環境の変化に留意させ理解する。</li> <li>・明治政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業を通じて，国家的統一過程を理解する。</li> </ul>
	後半	第10章 二つの世界大戦とアジア	立憲国家の成立と日清戦争 日露戦争と国際関係  近代産業の発展 近代文化の発達  第一次世界大戦と日本  ワシントン体制  市民文化の変容と大衆文化  市民文化の変容と大衆文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政府による強力な中央集権体制の推進と，自由民運動への対応の中で，近代国家の基盤が形成される過程を理解する。</li> <li>・不平等条約の改正および東アジアへの進出によって，欧米列強と肩を並べていく過程を，諸外国の動の動向と関連付けて考察する。</li> <li>・日清・日露戦争前後にかけて資本主義が確立された過程を，産業革命や近代産業の発展に注目して考察する。</li> <li>・大戦前後の政治動向と対外政策の推移について，政党政治の発展や日本の中国進出を踏まえて考察する。</li> <li>・大戦後，国際協調体制の進展にいたる国際環境の推移を理解する。</li> <li>・文化の背景に，労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の成立があったことを理解する。</li> <li>・戦後恐慌から昭和恐慌にいたる国内外の状況について，政治経済の動揺に着目し理解する。</li> </ul>
2学期	前半	第11章 占領下の日本  第12章 高度成長の時代	軍部の台頭  第二次世界大戦  占領と改革  冷戦の開始と講和 55年体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対外政策の推移を，世界情勢や軍部の政治的進出の拡大による政党内閣の崩壊過程を踏まえて考察する。</li> <li>・日中戦争の勃発から太平洋戦争にいたる過程を，大戦との関連を意識しながら考察する。</li> <li>・戦後の世界秩序を踏まえ，占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸政策を理解する。</li> <li>・東アジア情勢の変化を踏まえ，連合国による占領が終結し，日本が独立した意味を考える独立後の国内政治について，55年体制の成立から安定した保守政権の成立にいたるまでの過程を理解する。</li> </ul>
	後半	第13章 激動する世界と日本  通史終了後問題演習等	経済復興から高度成長へ  冷戦終結と日本社会の動揺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について，経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。</li> <li>・高度成長が終わり，保守政権が動揺する中，国際情勢の変化を踏まえて行なった国内の政治対策について考察する。</li> <li>・冷戦体制の終結とそれに関わる国内状況について，政治・経済・生活文化の面を踏まえて考察する。</li> </ul>

3 学期				
------	--	--	--	--

評価方法	定期試験をもとに総合的に評価する。
学習方法	近年，多くの大学の入試問題は，日本史においても難問・奇問が減り，各時代の総合的な理解ができているか，政治や社会等，各分野の歴史的な変遷が把握できているかを問うものが主流となっている。したがって，予習を行ない，疑問に思ふ箇所を明らかにして授業に臨むことが要求される。授業は，歴史の流れを把握することに主眼を置く。そのために必要な重要事項を効率よく整理し，提供することを心がけるつもりである。授業後，副教材を使って，実戦的な課題を出す。
注意事項	歴史を学ぶ上で何より大切なのは，歴史の流れを「大きくつかんで，細かく押さえる」ことである。やみくもに歴史用語を暗記するのではなく，歴史事象の因果関係あるいは変化を，常に意識して学習する態度が必要とされる。授業で，「流れ」をつかみ，復習のための課題演習を通じて，重要事項の定着をはかるように努めてほしい。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材の該当箇所を適宜指示する。



年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高3	難関大クラス	地歴	日本史演習	3
教科書		補助教材			
『詳説 日本史 B』 山川出版社		帝国書院『図説 日本史通覧』, 山川出版社『日本史B用語集』, 同『日本史史料集』, 同『復習と演習 日本史テスト』			

### 年間指導目標

他大学受験を前提に日本史の問題演習を行なう。具体的にはセンター試験, 難関大学一般入試に十分対応できる力を養うことが目標となる。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	● 原始・古代	日本文化のあけぼの 律令国家の形成 貴族政治と国風文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>センター試験に対応するため, 過去問を中心に演習を重ねて行なう。</li> </ul>
	後半	● 中世	中世社会の成立 武家社会の成長	
2学期	前半	● 近世 幕藩体制の確立期 幕藩体制の展開期	幕藩体制の確立 幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺 幕府の衰退	<ul style="list-style-type: none"> <li>あわせて, 日大統一テストの過去問も適宜用いてさまざまな出題形式に慣れる。</li> <li>他大学の入試問題では, 分野別テーマ史, 通史も多くみられるので, その対策も講じたい。</li> <li>図表・史料・統計などを用いた出題も, 適宜演習に織り込んでいく。</li> </ul>
	後半	● 近代・現代 明治国家の成立期	近代国家の成立 近代日本とアジア	
3学期	前半	明治国家の発展期 明治国家の崩壊期	恐慌の時代 軍部の台頭 日中戦争から太平洋戦争へ 占領と日本の民主化 冷戦の開始と講和	
	後半	戦後の日本と世界	55年体制 経済復興から高度成長へ 経済大国への道	

評価方法	定期試験を中心に総合的に評価する。
学習方法	センター試験の特徴は, 出題範囲に「穴」がないことである。各時代を偏りなく, 丁寧に学習することが要求される。教科書冒頭に扱われるような「コラム」(例:「資料を読む」「資料に触れる」)からも出題される。また, 出題形式も正誤問題から年代順の配列まで多様である。詳しくは授業で指摘・指示するので, 受け身にならないように積極的姿勢で取り組んでほしい。
注意事項	特になし。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材を使って学習する。該当部分については, 適宜指示する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	3	日大	社会	日大進学 文系世界史B	4
教科書		補助教材			
詳説世界史 山川出版社		詳説世界史10分間テスト 山川出版社/ニューステージ世界史詳覧 浜島書店 詳説世界史スタンダードテスト 山川出版社			

### 年間指導目標

基礎学力到達度テストで7割得点することを目標に、教科書を中心に世界史の基本事項を習得する。その際、細かな事項にとらわれることなく、歴史の流れを把握することに重点を置く。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン	産業革命以降の近現代史を扱う。前近代の歴史についても、適宜復習する時間を設ける。
	後半	第11章 欧米における近代国民国家の発展	ウィーン体制、ヨーロッパの再編 アメリカ合衆国の発展	近現代史は諸国間の関係が複雑にからみあうため、年表を常に傍らに置き、10年間隔で歴史事項を整理・理解するよう努める。
2学期	前半	入試問題演習 第12章 アジア諸地域の動揺	基礎学力到達度テスト対策 オスマン帝国の動揺とアラブのめざめ 南アジア・東南アジアの植民地化 東アジアの激動	客観問題、記述問題、論述問題 地図問題など、出題形式に応じた対策・指導を心がける。 各国史、テーマ史、同時代史、文化史など発展的学習にも取り組ませる。
	後半	第13章 帝国主義とアジアの民族運動	帝国主義と列強の展開 世界分割と列強対立 アジア諸国の改革と民族運動	自由主義、国民主義、社会主義 帝国主義、ファシズムなどの思想・潮流に着目し、各国の歴史に与えた影響を理解する。
		第14章 二つの世界大戦	第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 アジア・アフリカ民族主義の進展 世界恐慌とファシズム諸国の侵略	
		第15章 冷戦と第三世界の自立 第16章 現代の世界	第二次世界大戦 東西対立の始まりとアジア諸国の自立 冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興 第三世界の自立と危機 米・ソ両大国の動揺と国際経済の危機 冷戦の解消と世界の多極化 社会主義世界の解体と変容 第三世界の多元化と地域紛争	
3学期	卒業前教育			

評価方法	定期試験による。小テスト・課題プリント・ノート提出などを平常点に加味することもある。
学習方法	授業時に適宜指示する。
注意事項	授業内で適宜、文化史・テーマ史なども扱っていく。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材の問題集を用いて、既習事項を復習する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	3	日大	社会	日大進学 文系世界史演習	3
教科書		補助教材			
詳説世界史 山川出版社		詳説世界史10分間テスト 山川出版社/ニューステージ世界史詳覧 浜島書店 要点整理ゼミナール世界史 浜島書店			

### 年間指導目標

基礎学力到達度テストで7割得点することを目標とする。高校1・2年で学んだ内容を復習し、問題演習を通じて受験レベルの実践力を養成する。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	序章 先史の世界 第1章 オリエントと地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 第4章 イスラーム世界の形成と展開 第5章 ヨーロッパ世界の形成と展開	先史時代 オリエント、ギリシア、ローマ 古代イラン インド、東南アジア、中国文明 南北アメリカ文明 魏晋南北朝、隋・唐、五代十国 イスラーム史 中世ヨーロッパ史 (『ゼミナール世界史』 1～18)	授業をペースメーカーにして、高1・高2の既習事項を復習させる。
	後半	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 第7章 アジア諸地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第11章 欧米における近代国民国家の発展	ウィーン体制、ヨーロッパの再編 アメリカ合衆国の発展	補充問題プリントを用いるなど、個々人の苦手分野克服のための課題を課し、早期に知識の穴を埋めさせる。
2学期	前半	過去問演習 調べ学習、プレゼンテーション	基礎学力到達度テスト対策 世界史上の人物を1人取りあげレポート作成及び発表	基礎学力到達度テストまで 10月以降 図書館を利用
	後半			
3学期		卒業前教育		

評価方法	定期試験による。授業中の取り組みをもとに平常点を加味する。
学習方法	授業時に適宜指示する。
注意事項	授業内で適宜、文化史・テーマ史なども扱っていく。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材の問題集を用いて、既習事項を復習する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高校3年	日大	地歴	日本史B	4
<b>教科書</b>		<b>補助教材</b>			
山川出版社『詳説 日本史B』		帝国書院『図説 日本史通覧』，山川出版社『改訂版 日本史B用語集』，同『詳説日本史10分間テスト』，浜島書店『要点整理 ゼミナール日本史』，担当者作成プリント			

### 年間指導目標

「日本大学基礎学力到達度テスト」に十分対応できる学力の育成を行うとともに、高校2年次からの日本史学習の仕上げを目標とする。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第3部 近世 第7章 幕藩体制の展開	幕政の安定 経済の発展 元禄文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村・都市の変容により幕藩体制が動揺し、幕府や諸藩が実施した改革の意義と影響を考察する。</li> <li>・欧米諸国のアジア進出とそれに対する幕府の対応を考察し、幕府が衰退に向かう過程を理解する。</li> <li>・洋学や国学、新たな展開を見せる文学・芸能・美術を社会の変容と関連付けて考察する。</li> </ul>
	後半	第8章 幕藩体制の動揺	幕政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村・都市の変容により幕藩体制が動揺し、幕府や諸藩が実施した改革の意義と影響を考察する。</li> <li>・欧米諸国のアジア進出とそれに対する幕府の対応を考察し、幕府が衰退に向かう過程を理解する。</li> <li>・洋学や国学、新たな展開を見せる文学・芸能・美術を社会の変容と関連付けて考察する。</li> </ul>
2学期	前半	入試問題演習 第9章 近代国家の成立	基礎学力到達度テスト対策 開国と幕末の動乱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開国までの経緯を、日本を国際社会に組み込むにいたった国際環境の変化に留意させ理解する。</li> </ul>
	後半		明治維新と富国強兵 立憲国家の成立と日清戦争	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策を通じて、国家的統一過程を理解する。</li> <li>・政府による強力な中央集権体制の推進と、自由民権運動への対応の中で、近代国家の基盤が形成される過程を理解する。</li> <li>・不平等条約の改正および東アジアへの進出によって、欧米列強と肩を並べていく過程を、諸外国の動向と関連付けて考察する。</li> </ul>
3学期				

評価方法	定期試験・小テスト・課題プリントに平常点を加え、評価する。
学習方法	担当者の指示にしたがって、教科書の該当箇所を予習する。基本事項の確認については、用語集・史料集・参考書等を活用する。授業では、歴史的事象の時代背景・相互関連を含め解説するので、問題集を使って復習に努めてください。
注意事項	特になし

インフルエンザ等  
で臨時休校になっ  
た場合の課題

担当者作成の問題演習プリントを行う。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和3年度	高校3年	日大	地歴	日本史演習	3
教科書		補助教材			
山川出版社 『詳説 日本史B』		担当者作成プリント, 浜島書店 『要点整理 ゼミナール 日本史』, 帝国書院 『図説 日本史通覧』			

#### 年間指導目標

日本大学基礎学力到達度テストに対応できる学力の養成をめざす。従って、演習の範囲は古代から江戸時代終了（幕末を除く）までをまず第一とする。日本大学基礎学力到達度テスト終了後は近現代期の問題演習を行う。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	古代～中世（鎌倉時代前半）	日本文化のあけぼの 律令国家の形成 貴族政治と国風文化 中世社会の成長（3武士の社会まで） （『ゼミナール日本史』1～11）	問題演習を通じて知識の確認と習得および実践力の養成を主眼とする。
	後半	中世（鎌倉時代後半）～近世	中世社会の成長（4蒙古襲来から） 武家社会の成長 幕藩体制の確立 幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺 （『ゼミナール日本史』12～25）	問題演習を通じて知識の確認と習得および実践力の養成を主眼とする。
2学期	前半	入試問題演習 到達度テスト後 近現代	基礎学力到達度テスト対策  近代国家の成立 （『ゼミナール日本史』26～28）	問題演習を通じて知識の確認と習得および実践力の養成を主眼とする。
	後半	近現代	近代国家の成立 （『ゼミナール日本史』29～33）	問題演習を通じて知識の確認と習得および実践力の養成を主眼とする。
3学期				

評価方法	定期試験・課題プリント・ノートに平常点を加え、評価する。
学習方法	授業では、補助教材『要点整理 ゼミナール 日本史』を使って学習する。また、放課後補講・夏期講習を適宜行う。
注意事項	1 授業につき1単元ずつノートに問題を解いてくること。予習の際は教科書を見ながらでかまわない。授業はその解説となる。授業が終わったら必ず問題を解きなおすこと。できるようになるまで何回も解きなおすこと。その際、授業で補足されたことを合わせて確認しておくこと。さらに、自分でも教科書等で調べたことなどを適宜補足して勉強すること。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材『要点整理 ゼミナール 日本史』（浜島書店）の該当箇所を適宜指示。